



村の教育行政に尽力された故照沼信邦氏をしのんで 「東海村名誉村民 故照沼信邦氏お別れの会」

10月1日、東海文化センターで、「東海村名誉村民 故照沼信邦氏お別れの会」が行われました。照沼氏は東海村教育委員会教育委員長として、28年間の長きにわたり本村の教育行政に尽力されました。在任中は学区の再編成や、幼稚園、小・中学校の新設など本村の幼児・学校教育体制の礎を築き、多大な貢献をされました。また、「友情の船」北海道研修の旅をはじめとするさまざまな活動をスタートさせるとともに、東海村少年少女合唱団の初代団長を務めるなど、本村の社会教育の発展にも先導的な役割を果たされた照沼氏。お別れの会では、参列者全員による黙とうの後、功績を振り返り、別れを惜しむ姿が見られました。



子どもたちの笑顔を守る皆さんに感謝を 山田村長が保育施設・学童クラブを訪問

新型コロナウイルス感染症が拡大する中でも、休むことなく保育サービスの提供を続けてきた保育士等の皆さんを慰労するため、8月31日・9月1日の両日、村長が村内の保育施設や学童クラブを訪問しました。「皆さんの頑張りは人々を支え、子どもたちを笑顔にしてくれました。そして何より、頑張られた皆さん自身が笑顔でありますように」という村長の言葉に、訪問を受けた保育士は「先のことを考えると不安もありますが、大きな勇気をいただきました。感染予防策を徹底し、子どもたちが少しでも安心して生活できる環境づくりに取り組んでいきます」と話しました。

身近な彫刻作品に目を向けてみませんか？ 彫刻作品「人というもの」を役場敷地内へ移設

8月26日、白方コミュニティセンター駐車場拡張工事に伴い、役場庁舎敷地入口に彫刻作品「人というもの」が移設されました。これはつくば市出身の彫刻家、鈴木典生さんの作品で、平成10年に開催された第3回「木内克大賞野外彫刻展」の大賞受賞作品です。本作品が表すのは“内なる自分と外へ向かって受け止められるもの”。移設に立ち会った鈴木さんは「場所が変わっても作品自体は変わらないが、新たな環境で新鮮に感じてもらい、コミセンにある時とは違う存在となってほしい」と話しました。村内には39点の野外彫刻作品が点在しており、本作品の隣では第1回彫刻展の大賞受賞作品「夏の夜空」を見ることができます。皆さんの身近にある彫刻作品に目を向け、芸術の秋を楽しんでみてはいかがでしょうか。

▼彫刻作品「人というもの」と鈴木さん



▼彫刻作品「夏の夜空」

